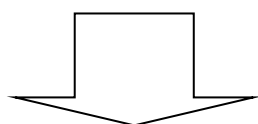


	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを明らかにするため、事実と感想・意見を区別したり、表現を工夫したりして、自分の考えをまとめ、話す、書くなどして、相手に確かに伝えること。 ・文章の全体像を把握し、文章を基に、必要な情報を選んだり、人物の相互関係などを捉えたりして、論の進め方や表現の効果を考えながら読むこと。 ・互いに話したり聞いたりして考えや思いを共有し、自分の考えを広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体を、説明的文章ならば意味段落を、文学的文章なら場面を分けて捉えることで、どのような構造で文章が構成され書かれているかつかませていく。 ・根拠となる叙述や描写を明らかにした考えをまとめるようにする。 ・話す時・聞く時のルールを徹底しながら、他者の意見を繋いでいくようにする。考えの変化や気づきをノートに記述するよう声を掛ける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフ・地図などから読み取った数値や事象を活用して、考えを表現しまとめたり、人の意見を比べて考えを広げたりすること。 ・調べる目的や相手に応じて、資料集やインターネットなどの情報を探し、選択し、活用して、課題解決につなげること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の動機付けが図れるような身近な題材を取り上げた表やグラフ、地図などを定期的に授業の導入で活用し、読み取りや考察におけるスキルの向上を図る。 ・単元の初めに、児童とともに小単元を貫く学習課題を立て、教材に取り組むための見通しをもたせて、集めるべき情報の観点を明確にした授業を組み立てる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・小数、整数の基礎的基本的な加減乗除のやり方を理解し、正しく計算すること。 ・未知の課題に取り組む際、既習事項を生かして取り組みの見通しをもち、粘り強く問題解決すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせ、コースによって単元の指導計画や一単位時間の時間配分を変え、意味理解や技能の習熟に重点を置いて指導したり発展的な学習に繰り返し取り組んだりさせる。 ・指導者がこれまでの学習を想起させ、これまでの学習で生かせることがないか考えさせたり、類似点に気付かせたりする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象、現象から疑問に感じたことを基に、自ら見通しをもって観察や実験を行い、問題解決していく力を身に付けること。 ・自然に親しみ、愛すると共に生活に生かそうとすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件制御の意味やそれによって結果がどうかわるかを考え話し合うことで多面的な見方をすることができるようにする。 ・直接触れたり、見たりできるものは授業で積極的に用いたりしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題を見付け、その課題解決のための方法を選んだり工夫したりして、運動に取り組んでいくこと。 ・運動の楽しさや喜びを味わいながら、技能を高めていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもって課題解決に向けて学習を進められる学習カードを準備する。 ・児童の実態に合った場や用具を準備し、運動の特性を味わえるようにする。 ・友達同士で見合う場を作り、互いに良さや課題を伝え合い、めあてを達成できるようにする。 ・端的な発問を検討していく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を通じて、道徳的価値をよりよく生きる上で大切なことだと理解し、自分なりの考えをもつこと。 ・人との意見交流や自己の振り返りをする中で、物事を多面的・多角的に捉えて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいについての自分の考えが、深まったり変化したりしたことが分かるような板書の仕方に変える。また、教材をたどる板書ではなく、児童の気づきを中心に黒板に記録していく。 ・考えたことや実生活にいかそうとする心情を見取ることができるように、「自分だったらどうか」という観点で考える時間を意図的に設けたり、ノートに考えを残したりする。

総合	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を立て、必要な資料を集め、分かりやすく人に伝える力を身に付けていくこと。 ・調べたことを様々な方法でまとめ、発表したり発信したりしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入を工夫し、児童が自ら課題を見付けられるようにしていく。また、映像や写真などの視聴覚教材を工夫し活用していく。 ・新聞、ポスター、図、表など効果的な表現方法を伝え、自分でまとめ方を選択し、発表できるようにしていく。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活体験を振り返り、自分の生活に役立つ工夫を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方に関する基礎知識を習得できるように、ワークシートなどを工夫していく。また、日常的な過ごし方の中でも、どのような取り組みがあるかを考えさせていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けること。 ・音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 ・主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しむとともに音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて理解できるようにする。運指や奏法の基礎を押さえ、スモールステップや発展的に工夫できる教材を選ぶようにする。 ・音楽を聴いて感じたこと、気づいたことを基に、互いの思いを共有しながら音楽表現ができるようにする。楽曲や演奏の良さを伝えるために、言語活動を通して、自分の思いや友だちの思いを交流させながら、音楽を味わって聴くことができるようにする。 ・導入時の音楽の出会いを既習事項と関連させながら工夫し、個人の学習活動を保証すると同時に、交流、ペア、グループ学習を有効に取り入れる。様々な音楽をバランスよく取り入れ、日常の音楽との関わりを意識できるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、造形的な視点を持ち自分なりに形や色などを捉えること。また、これまでの経験や技能を活動に応じて活用すること。 ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、発想や構想をし、主体的に表現すること。 ・親しみのある作品などを鑑賞し、自分なりに感じとったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色からイメージをふくらませることができるよう、抽象表現にふれることができる題材に取り組む。また、既習の道具や材料については、活動に応じてできる範囲で児童からの申し出があれば使えるように用意しておく。 ・自分の表したいイメージに近づけるよう、繰り返し試し作り変えることができるような題材や場の設定を行う。 ・自分たちの作品の他、芸術家の作品にも触れる機会をもつ。対話式鑑賞を定期的に行い、鑑賞のおもしろさを感じることができるようにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に英語で尋ねたり発音したりして、英語表現に慣れ親しむこと。 ・日常生活に関する表現を覚え、友達と簡単なやりとりをしたり、自分のことを発表したりすること。 ・アルファベットの大文字、小文字を活字体で書いたり簡単な単語を書いたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語表現することを間違ってもよいことを伝えたり間違ってもよいという雰囲気をつくったりする。そして、warm-upなどで既習のセンテンスをつかって繰り返し尋ね合えるようにしていく。 ・ゲームなどを取り入れ、楽しく単語やセンテンスを覚えられるようにしていく。 ・補助線入りのドリルで、大文字、小文字を正しく書けるようにしていく。



	成果○ と 課題▼
国語	<p>○読み物教材の指導において、どのような構造で文章が構成され、書かれているかを児童につかませることで、見通しをもち学習に取り組む児童の姿が見られた。</p> <p>○根拠となる叙述や、描写を明らかにして考えをまとめさせることで、論の進め方や表現の効果を考えて読むことにつながった。また、振り返りで読みが深まったと記述する児童の姿もあった。</p> <p>▼互いに話したり聞いたりして考えや思いを共有し、自分の考えを広げられる児童がいる反面、交流自体の意味を見出せない児童も一定数いる。また、考えの共有に理解を示すものの、考えの変化や気づきをノートに記述するといった表現までつながらない児童もいる。実態に即した声掛けや個別の支援を含めた指導を続ける必要がある。</p>
社会	<p>○表やグラフを読み取り、自分の考えの根拠として示す機会が増えた。</p> <p>○単元の初めに単元の流れを確認することで、学ぶ見通しをもち、課題意識をもって授業に取り組むことができる児童が多く見られた。</p> <p>▼ノートに授業の振り返りを書く際に、学んだことだけでなく自分の考えやこれから学びたいことへの意識へとつなげて書くことは個人差があり、自分の生活と繋げて考えていける指導が必要である。</p>
算数	<p>○単元の指導計画や一単位時間の時間配分を児童の実態に合わせて変えることで、児童の意味理解や、技能の習熟に重点を置いた指導ができた。また、発展的な学習に取り組ませることで小数、整数の加減乗除への理解をより深めさせることにつながった。</p> <p>○これまでの学習を想起させたり、類似点に気付かせたりすることで、既習事項を利用して問題に取り組もうとする児童の姿が見られた。</p> <p>▼小数、整数それぞれの概念については大半の児童が概ね理解できている。しかし、既習事項である小数の四則計算や、三桁以上の乗法・除法に苦手意識があり、習熟度の低い児童がいる。定着を確かにするため、小問に繰り返し取り組ませて継続して指導する必要がある。</p>
理科	<p>○話し合いで実験の仕方や方法をよく練り、自分がやってみたいという方法で実験を行えるようにした。</p> <p>○結果が正しく出ないこともあったが、クラスの友達の意見や結果を参考にして、失敗もあることを学んだ。</p> <p>▼理科好きの一部の児童だけの発想に偏らないよう心掛けたが、予想を立てる際に、自分の考えを表現することにためらいがある児童がまだいるため、より分かりやすく提示して考えを深められるようにする。</p>
体育	<p>○学習カードを活用し、自己の課題を見付け、その課題に対して振り返りを行った。めあてを一人一人が意識しながら活動に取り組み次時の学習の見通しをもつことができた。</p> <p>○ルールや場の設定を工夫したことで、一人一人が役割を見付け、楽しく運動に取り組む姿が見られた。</p> <p>▼更に運動が苦手な児童への工夫をして、すすんで運動に取り組めるようにする必要がある。</p>
道徳	<p>○教材をたどる板書ではなく、児童が気付いたことを中心にして記録することで、個人の気づきを学級の気づきに広げ、深めていく事ができてきた。</p> <p>○「自分だったらどうするか」など自分ごととして学びをとらえることで、今後の変容に繋げていくきっかけ作りができてきた。</p> <p>▼経験の少ない児童の学びを深める手立てが十分に取れなかった。より多くのアプローチを考えていく必要がある。</p>
総合	<p>○新聞、ポスター、図、表など効果的な表現方法を伝え、自分でまとめ方を選択し、発表できるようにしていくことで児童の主体的な学習態度につながった。また、映像や写真などの視聴覚教材を工夫し活用していくことで、児童の表現の幅も広がった。</p> <p>▼学習の導入を工夫し、児童が自ら課題を見付けられるようにしていくことに重点を置いたが、児童の課題意識と教師の指導との間に乖離が見られた。実態を把握し考慮した導入の工夫を続けていく必要がある。</p>

家庭	<p>○日常生活や家族との生活に関連付けて、より過ごしやすくてできる部分を考え、共有する時間を増やした。</p> <p>○裁縫の細かい指導がくり返し行え、友達同士で教え合うことができよと感じた。できることやできないことを精査し、方法を考えてできるよう気をつけていきたい。</p> <p>▼コロナ禍の家庭学習で料理の仕方を深めたり、調理での注意事項など共有したりすることがなかなか難しかった。</p>
音楽	<p>○ねらいを精選し明確にすることで、常に児童がめあてを持ち、学習に取り組む流れができた。</p> <p>○音楽会を通して互いの音を聴き合い、合わせようとする意識が高まった。また、曲や演奏の良さを言葉で伝えあい、よりよい演奏を目指そうとする意識も高まった。</p> <p>○年間を通して、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞学習をバランスよく行うことができた。</p> <p>▼歌唱の合唱学習、器楽リコーダー学習への取り組みは十分でなかった。次年度へ確実に引き継ぐ。</p> <p>▼表したい表現につながる技能の習得に個人差が大きい。スモールステップで達成感を持てるように教材を工夫するなどの提示方法、見通しの持たせ方などの指導計画を工夫する。</p>
図工	<p>○形や色の印象から発想をふくらませることができるよう、折に触れて声をかけた。絵、立体とも、形や色を手掛かりにイメージをもち、そこから発想を広げていく姿が見られた。</p> <p>○既習の道具や材料については、自分の表現に合わせて必要に応じて使えるようにした。児童自ら申し出る場面もあり、経験を生かして発想や表現を深めていた。</p> <p>▼抽象表現の題材にあまりたくさん時間がとれなかった。時数の配分を考えて、バランスよく時間がとれるようにする。</p>
外国語	<p>○英語表現することを間違ってもよいことを伝えたり雰囲気をつくったりしたことで、意欲的に既習センテンスをつかって繰り返し尋ね合えることができた。</p> <p>▼ゲームなどを取り入れ、楽しく単語やセンテンスを覚えられるように、引き続き工夫をしていく。</p> <p>▼補助線入りのドリルで、大文字、小文字を正しく書けるようにしていく。</p>